

講演名：「H21技術士全国大会in仙台」

日時：平成21年10月15日～16日（+17日）

会場：宮城県仙台市一円

講演概要：

去る10月15日～16日（+17日）杜の都 仙台で開催された第36回技術士全国大会に参加しました。



大会初日は首都大学東京 名誉学長の西澤教授の基調講演を拝聴しました。仙台が弱電や電波の分野で世界に誇る先進都市であることや学術と技術の役割分担の話題など、一流の研究者が放つ技術の煌めきを堪能しました。



また、大会2日目の分科会は全国各支部の青年層が中心となって企画した第4分科会「技術のマネジメント」に参加し、技術者としてどのように社会と関わり発信していくか、をテーマに地域連携型科学イベントの実践等についての講演やディスカッションを行いました。

分科会終了後、この分科会でパネリストとして熱のこもった発表をされていた経営工学部門の加藤技術士が急逝されました。心から哀悼の意を表します。

その後の総合シンポジウム（各分科会の報告と総括）終了後、我々青年技術士は仙台市の「秋保温泉」へと移動しました。

到着後、会議室で青年技術士本・支部連絡交流会を開催し、「技術士の知名度・地位の向上に関してどのようなアクションをするべきか」等について活発な議論が交わされました。



この中で、北海道支部の青年技術士交流委員会からの情報発信として、昨年より実施しているJABEE認定校における技術者教育についてプレゼンテーションを実施し好評を得ました。

その後は喪に服しつつ夕食を嗜み、非常に内容の濃いディスカッションを深夜まで行いました。

翌17日は恒例となりつつある青年技術士のテクニカルツアーを実施しました。

最初に向かった大倉ダム（多目的ダム）は全国で2つしかないダブルアーチダムで、両翼を広げたような美しい姿が印象的でした。



また、日本三景・松島は美しい景観を武器に水産業等の地域資産を有効に活用した地域づくりの事例として興味深く見学しました。

移動中の車内でもこれからの青年技術士が果たす役割等について各支部との意見交換を行い、有意義な時間を過ごした後、CS 2nd stages進出に盛り上がる仙台を後にしました。

（文責：青年技術士交流委員会 田中）